

たけの子との
縁にありがとう

こんにちは。6才(年長)の福人(ふくひと)と3才(年少)の寿人(ひさひと)の母、西垣貴子です。2021年の12月末にマレーシアに引越し、福人は一足先にたけのこを離れることになりましたが、オンラインで参加させていただく予定の卒園式を今からとても楽しみにしているところです。

2020年の8月にたけの子に出会ってから、幼少期時代の環境として私が一番大切にしていた「自然の中での自由な遊び」という宝物をたっぷりと育ませていただきました。また、たけの子を取り巻くたくさんの人との出会い・縁で、母子ともに豊かな日々を過ごすことができました。縁に改めて感謝いたします。

長男・福人は0歳児の頃から東京の保育園にお世話になっていました。「食」を大切にしている園で、食べることがとっても大好きな福人は、そこで基本の食事生活リズム、集団生活、お友達との触れ合いなどを自然に学んできました。しかし、寿人がお腹にできた頃から、「行かない」ということが多くなり、それと同時に、私の中でも自然の中で自由に走り回る時間を多くしてあげたいな...と想っていたので、その頃からアンテナを張って「福人が小学校に上がるまでの残りの期間を過ごす場所」をずっと探していました。その後、出産時には地元長井市の児童センターでお世話に

なったり、母子で屋久島の森のようちえんに短期滞在したりと、「自然」というものを軸にして、色々な環境を経験し、私の中の「ここ」という場所を探してきた気がします。

そんな中で出会った「たけの子」。初めての場所はいつも構えてしまう福人が、たけの子では最初から自由に動き回っているのが印象的でした。建物の雰囲気、自然環境、少人数でそれぞれ自由な子どもたち、スタッフさんの雰囲気、弟・寿人がいつも横にいる環境など、色々なものがそうさせたのだろうと思います。出会いからとても自然な流れで入園することになり、数年探し続けた私の中の「ここ」を見つけることになりました。

その後はあつという間にザ・たけの子園児生活！湧き上がってくる思いやエネルギーを止めることなく、全身を使って、感情を出して遊んでくることで、子どもらしい生命エネルギーを福人から感じるようになりました。おかげで、いつも20時には勝手に眠る、そんな理想的なリズムとなりました。

また、自転車も遊びの中で覚え、練習をこちらから提供することがないまま、いつの間にか一人で乗れるようになりました。体を動かすこと、チャレンジすること、それ自体を楽しむように変化したな〜と感じます。

また、お腹が空いたら一人でご飯をよそって食べた、冷蔵庫から味噌を出して、汁茶碗に味噌を入れてお湯を注いで味噌汁を作っていたり、自分の要望を、「ママー〇〇してー！」ではなく、自分でやっちゃう、そんな自立心が自然に身についたように思います。

そして、友達との日々のやりとりから生まれる繊細な感情の変化、年長としての気持ちの成長、そんなものをたまに覗く園生活や、日誌「学びの物語」からすごく感じていました。

今、マレーシアに来て、暮らしのスタイルがすっかり変わってしまいましたが(元々なんでも食べる子でしたが、「辺見さんの白いたくあんが食べたい」と言う位、田舎の食事が好きになった福人の味覚をいかにこの国で保てるか...考え中です。笑)、たけの子の友達やスタッフさんとの自然遊びの中で、五感をたくさん使って経験してきたことは、体に、心に、刻まれていることと思います。

こうして私たち家族にとって、かけがえのない時間を過ごすさせてもらったたけの子。これからも私たちの「居場所」としてずっと関わらせていただけたら嬉しいな、と思います。

帰国後、山形に帰った際には寿人がまたお世話になるかもしれません。

その際にはどうぞよろしくお願いいたしますー！

西垣 貴子

